



Wilhelm Furtwängler conducts Schumann & Beethoven

aud 91.441

EAN: 4022143914415



Record Geijutsu (2018.02.01)

Ja, die Rezension siehe PDF!



2018.2 Record Geijutsu

The Record Geijutsu Disc Review

[録音]=76/77点 シューマン:《マンフレッド》序曲、交響曲第4番、ベートーヴェン:同第3番《英雄》

フルトヴェングラー指揮 ルツェルン音楽祭
アウディーテ KIGC27~8 ¥4000 CD&SACD初CD化
一部

再

発

売

交響曲

ツットのフォルテなど、じつにすばらしいサウンドだ。数多く残された巨匠の《エロイカ》の中でも、この53年盤は特筆に値する超名演だ。52年のウィーン盤の完成度の高さに、大きな起伏を持ったドラマティックさを加えたと言えは簡単だが、まったく身動きがでないほどの圧倒的なベートーヴェン。葬送行進曲はわけても感動的だ。終結部やファグット直前のささやくような弱音など、表情の深み



推薦 53年8月26日、ルツェルン音楽祭における実況録音で、《マンフレッド》序曲はこのディスクが最初のリリースとなった。そして今回はSACDでのリマスターリングで、すばらしい結果を出しているのである。特に《エロイカ》は会場の雰囲気、残響を含む空気感など、圧倒的な臨場感を保ちながら、音楽とは無関係なノイズが聞き違えるほどに取り除かれている。胸に突き刺さるようなトランペ

が聴き手の胸を猛烈に揺さぶるのである。両端楽章の強烈な推進力や雄大なスケール感もこの巨匠ならではの、といえよう。シューマンの第4番も身体がぶつ飛びそうな名演だ。もちろんこれ以前の巨匠の激しくドラマティックな演奏とは大きく異なっている。同じ53年5月の有名なグラモフォン盤のような達観しきった演奏にむしろ近い。聴き手の胸にガツンと響く猛烈なアタックから陰影の綾模様に埋没し、そんな深いコクに至るまで、ダイナミックは凄絶をきわめているが、テンポの動きは限定的で、そのことが音楽をクツと立派に、懐の深いものにしてしまうと、言つことができない。そして新発見の《マンフレッド》序曲。拍手が止んだからの長く物々しい沈黙からして異様な雰囲気伝わってくるが、この世のありとあらゆる懊悩を抱え込んだかのよう、に苦しみ悶える序奏部に重たい足どりの主部、聴き手をコテンパンに打ちのめす名演が展開する。実際にはこの直後に第4番、休憩後に《エロイカ》だったのだから、聴衆はへとへとになって家路についたのではないだろうか。没後60年を超えてこうして新しい音源が発見される、すごいことだ。 松沢